糸魚川市地震防災マップ

ITOIGAWA EARTHQUAKE DISASTER PREVENTION MAP

保存版

地震防災マップは、地震が発生した場合に想定されるゆれの強さや建物被害の危険度、液状化の危険度を地図上に表示し、あわせて地震災害に対する日頃の備えや災害時の行動などの情報を掲載したものです。
災害時はもとより、日頃の防災対策にご活用下さい。

平成２２年度作成
糸魚川市消防本部

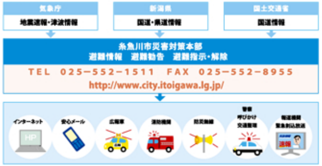
〒941−0069　糸魚川市南寺島2−10−20
TEL 025−552−0119
FAX 025−552−6925
E−mail　syoubou@city.itoigawa.niigata.jp

防災情報

緊急地震速報

緊急地震速報は、地震の発生やその規模を素早く知り、地震による強いゆれが始まる数十秒前に強いゆれが来ることをお知らせする情報で、震度４以上のゆれが予測される地域に気象庁が発表します。ただし、**震源に近い地域では、緊急地震速報が強いゆれに間に合わないことがあります**ので、「地震時の心得」をもとに、万が一に備えて適切に行動できるよう訓練することが重要です。

情報の伝達経路



気象庁：地震速報・津波情報
新潟県：国道・県道情報
国土交通省：国道情報

糸魚川市災害対策本部
避難情報　避難勧告　避難指示・解除
TEL 025−552−1511　FAX 025−552−8955
http://www.city.itoigawa.lg.jp/

緊急連絡先

施設名	電話(025)	連絡先	電話(025)
糸魚川市役所	552-1511	糸魚川警察署	552-0110
能生事務所	566-3111	糸魚川地域振興局	552-0611
青海事務所	562-2260	ガス水道局	552-1540
糸魚川市消防本部	552-0119		

家族の連絡先

連絡先	電話(会社・学校)	住所	メモ

インターネットや携帯電話による情報提供

気象庁・新潟地方気象台	パソコン：	http://www.jma-net.go.jp/niigata/
国土交通省 防災情報提供センター	パソコン：	http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/
新潟県土砂災害警戒情報システム	パソコン：	http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/sabou/
	携帯電話：	http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/sabou_m/
防災科学技術研究所 高感度地震観測網	パソコン：	http://www.hinet.bosai.go.jp/
	携帯電話：	http://www.hinet.bosai.go.jp/i/
内閣府防災情報	パソコン：	http://www.bousai.go.jp/
	携帯電話：	http://www.mobile.bousai.go.jp/index.html/

安心メール＠糸魚川

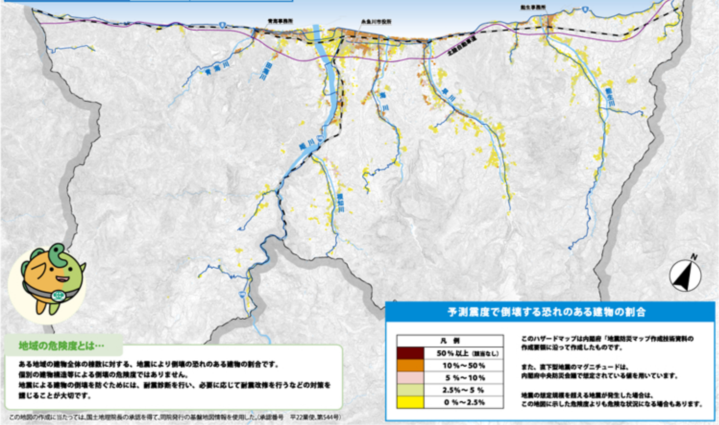
市では、携帯電話やパソコンなどのメール機能を使って、防災や防犯情報等を配信するサービスを行っています。サービスを希望される場合は、下記アドレスに携帯電話やパソコンから「空」のメールを送信し、折り返し受信する受付メールの説明にしたがって利用者登録を行ってください。

新規登録
entry@info.city.itoigawa.niigata.jp

地域の危険度マップ

地域の危険度マップは、どこでも起こりうる「直下型の地震」が発生した場合に、市内の建物の構造や建築年のデータをもとに、100mのメッシュ単位で建物が崩壊する割合を計算し、地域の危険度として色分け表示したものです。

直下型地震	想定地震の規模	この地震で地区内に想定される最大震度は６強です。
	マグニチュード 6.9	



地域の危険度とは…

ある地域の建物全体の棟数に対する、地震により倒壊の恐れのある建物の割合です。
個別の建物構造等による倒壊の危険度ではありません。
地震による建物の倒壊を防ぐためには、耐震診断を行い、必要に応じて耐震改修を行うなどの対策を講じることが大切です。

予測震度で倒壊する恐れのある建物の割合

凡例	
🟥	50％以上（該当なし）
🟧	10％～50％
▨	5％～10％
🟩	2.5％～5％
🟨	0％～2.5％

このハザードマップは内閣府「地震防災マップ作成技術資料の作成要領に沿って作成したものです。

また、直下型地震のマグニチュードは、内閣府中央防災会議で想定されている値を用いています。

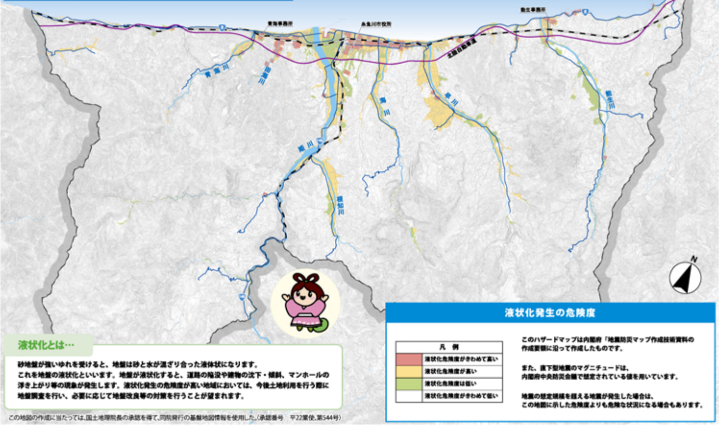
地震の想定規模を超える地震が発生した場合は、この地図に示した危険度よりも危険な状況になる場合もあります。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号　平22業使、第544号)

液状化危険度マップ

液状化危険度マップは、どこでも起こりうる「直下型の地震」が発生した場合に、市域の地形や地下水位などの地盤状況をもとに、５０mのメッシュ単位で液状化を起こす可能性を表したものです。

直下型地震	想定地震の規模	この地震で地区内に予想される最大震度は６強です。
	マグニチュード 6.9	



液状化とは…

砂地盤が強いゆれを受けると、地盤は砂と水が混ざり合った液体状になります。
これを地盤の液状化といいます。地盤が液状化すると、道路の陥没や建物の沈下・傾斜、マンホールの浮き上がり等の現象が発生します。液状化発生の危険度が高い地域においては、今後土地利用を行う際に地盤調査を行い、必要に応じて地盤改良等の対策を行うことが望まれます。

液状化発生の危険度

凡例	
🟥	液状化危険度がきわめて高い
🟨	液状化危険度が高い
🟩	液状化危険度は低い
□	液状化危険度がきわめて低い

このハザードマップは内閣府「地震防災マップ作成技術資料の作成要領に沿って作成したものです。

また、直下型地震のマグニチュードは、内閣府中央防災会議で想定されている値を用いています。

地震の想定規模を超える地震が発生した場合は、この地図に示した危険度よりも危険な状況になる場合もあります。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号　平22業使、第544号)

耐震診断

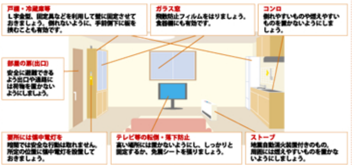
地震から自分と家族の身を守るためには、住宅が地震に強いことが重要です。耐震基準が変わった昭和56年6月以前に建てられた建物については、特に注意が必要です。市では木造住宅の耐震診断や補強工事費用の一部について補助を行ってますので、専門の診断士による耐震診断を受けてみましょう。

糸魚川市木造住宅耐震化支援事業			
	補強設計費補助	補強設計費の１/３	最高 10万円
	改修工事費補助	補強工事費の１/３	最高 65万円
	※市の補助制度を利用すれば１万円で耐震診断できます。		

相談窓口：都市整備課建築住宅係　TEL 025−552−1511(内線2378)

わが家の安全チェック

家の中の安全対策



戸棚・冷蔵庫等
L字金型、固定具などを利用して壁に固定させておきましょう。倒れないように、手前側下に板を挟むことも有効です。

ガラス窓
飛散防止フィルムをはりましょう。食器棚にも有効です。

コンロ
倒れやすいものや燃えやすいものを置かないようにしましょう。

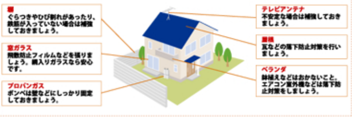
部屋の扉(出口)
安全に避難できるよう出口や通路には荷物を置かないようにしましょう。

要所には懐中電灯を
暗闇では安全な行動は取れません。所定の位置に懐中電灯を設置しておきましょう。

テレビ等の転倒・落下防止
高い場所には置かないようにし、しっかりと固定するか、免震シートを張りましょう。

ストーブ
地震自動消火装置付きのもの。周囲には燃えやすいものを置かないようにしましょう。

家の外の安全対策



塀
ぐらつきやひび割れがあったり、鉄筋が入っていない場合は補強しておきましょう。

窓ガラス
飛散防止フィルムなどを張りましょう。網入りガラスなら安心です。

プロパンガス
ボンベは壁などにしっかり固定しておきましょう。

テレビアンテナ
不安定な場合は補強しておきましょう。

屋根
瓦などの落下防止対策を行いましょう。

ベランダ
鉢植えなどはおかないこと。エアコン室外機などは落下防止対策をしましょう。

地震時の心得

家にいた場合

1.まずわが身の安全を確保
立っていられないような大きなゆれを感じたら、頭を保護し丈夫な机の下などに身を隠します。家具の転倒や落下物には十分注意しましょう。

2.すばやく火の始末
動けるようであれば、すばやくガス器具やストーブなどの火を消しましょう。ガスは元栓を締め、電気器具はプラグを抜きましょう。

3.戸を開けて出口の確保
ゆれでドア枠などが変形し、開かなくなってしまうことがあります。玄関や部屋のドア、窓などを開けて避難口を確保しましょう。

4.あわてて外に飛び出さない
外では、ガラスや瓦、看板などが落ちてくることがあります。大地震でも大きなゆれは１分程度です。あわてず状況を判断しましょう。

5.ガラスの破片に注意
室内のガラスに破片や危険物が散乱しているときには、スリッパなどの室内履きで行動しましょう。

6.正しい情報の入手
デマやうわさに惑わされることなく、ラジオやテレビ情報を入手しましょう。また市の災害情報に注意を払ってください。

7.冷静に避難
ゆれがおさまっても、避難の指示などがあったら、速やかに避難しましょう。避難の指示がなくても、延焼や建物倒壊の危険性を感じた時には、冷静に判断して避難しましょう。

- オフィスや作業場では、防災責任者を決め、防災計画を作成し、それにそった行動をとりましょう。
- 公共交通機関乗車時には乗務員、デパートや娯楽施設など人が集まっているところでは、係員の指示にしたがって行動しましょう。

路上にいた場合

窓ガラスや看板などが落ちてくることがあります。ビルなどの建物から離れ、持ち物や両手で頭を守り、近くの公園や広い場所に避難しましょう。

車を運転中の場合

急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落として道路の左側に駐車し、エンジンを切りましょう。避難する場合にはキーをつけたままにし、ドアロックをしないで、車検証や貴重品は忘れずに持ち出しましょう。

エレベーターに乗っていた場合

ただちに各階のボタンを全て押し、停止した階で降りましょう。停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け非常電話で救助を求めましょう。